

全国商工会議所青年部連合会

〒100-0005東京都千代田区丸の内3-2-2

「日本商工会議所中小企業振興部内」

TEL 03-3283-7847

広報委員会

担当副会長: 首藤 俊一郎 委員長: 山本 正和

宮田 豊和 / 安藤 秀男 / 大西 一司

笠間 清 / 山下 仁規 / 水溜 真樹



Symbol Logomark

これまでに各地商工会議所で使用されている商工会議所のマークの下に、ゴシック体でデザインしたシンブルで馴染み易いロゴマークとなっています。ロゴは、商工会議所青年部の英語名 (Young Entrepreneurs Group) の頭文字をとったものですが、同時に商工会議所青年部の持つコンセプト (若さ、情熱、広い視野をもちた経営者=YOUTH, Energy, Gene-ralist) を表しています。

しょうせい 翔生

平成13年度

会長・副会長・専務理事挨拶

本年度スローガン

「連携YEG実践展開・バーチャルからリアルへ」



平成13年度 全国商工会議所青年部連合会 会長 古泉 幸一

古泉流構造改革 「開かれた商青連」

21世紀の始まりは、社会全体が閉塞感に包まれたままスタートいたしました。経済界も長きにわたる景気低迷で、日本がまだ経験のしたことのないデフレへと推移いたしました。回復するまでにはまだまだ時間を必要としている気がいたします。

中小零細企業の今は試行錯誤の連続と、大幅な改革を必要とされています。私たちの経営環境は出口の見えない極めて厳しい状況といえます。

そんな中、商工会議所青年部に地域は大変な期待をされています。自らの企業や店舗を通じて私たちは地域に貢献をいたしました。これからも私たちは地域を創っていくはなりません。しほはれが地域経済の活力となり、経済界の発展につながります。企業が発展するために今までと違う新しい枠組みの構築、身の丈にあった経営の確立など構造改革をしていかなければなりません。

その為に全国商工会議所青年部連合会はどうあるべきか考えると、諸問題に対する方向性を示していかなければならぬと考えます。その方向性を確認することで、自企業の経営に対する自信にもつながります。

まさに諸問題は積算しています。超高齢化社会、銀行の不良債権処理、そして目前に迫った人口減少の問題。今までの経営における価値観を根本から変えていかなければいかなる方向性を見出し、感じたいと思います。

今年度の商青連を、「開かれた商青連」としたいと考えています。先行き展開の難しい現在において、全国組織からの情報量の差が経営安定と方向性に大きな要因となつてきます。全国の会員に、ためになる情報の提供を心がけていきたいと思ひます。そして、開かれたという言葉の中には、議論する場、議論を促す場、意見を述べた場、意見を述べた場、という思いも含んでおります。商青連の役員会においても、各地における諸会議等においてもそうあって欲しいと思ひます。会員の皆様のやる気に答えてい商青連にしたいと考えています。どうか協力をいただきました。お願いいたします。



副会長 大脇 唯真

一丸となって古泉丸の大漁を!

そう、一緒に同じく15年度開催の米子全国大会開催地現地視察で折り返すという懐かしい前年同様、この閉塞的な時代に折しも、行政と経済団体という括りの違う団体ではありませんが、コイズミという両方が名前を連ねるという、なにか縁に感じているのを感じさせて頂きたいような気が致します。

「一丸」とは、古泉丸、何となく成果という大漁を獲り果敢に航海出来ます。皆々「一丸」の御礼を申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。



副会長 関根 敏伸



熱気とチャレンジ精神

9月には、北海道、関東、東北の各ブロック大会が相次いで開催されました。大会においては、熱気とチャレンジ精神溢れるYEG活動が体感することが出来ました。また10月には、400名と多いメンバーを擁して、ヤングリーダー研修会を京都で開催する運びとなりました。研修と交流はYEGの柱です。参加頂いた仲間と本気で満足いただけるよう、委員会メンバーとも金入りを準備を進めています。

古泉丸を補佐する立場として、会長・商青連執行の程度おた立ってごが出来たかを振り返り、後半戦の残りの任務を精励努めて行く所存であります。残り半年間宜しくお願いいたします。



副会長 首藤 俊一郎

自分たちで創り出す!

毎日暑い、景気も悪い。このままでは景気を委を流れて押しつぶされてしまう。そんな中、仕事(こと)でもいい、地域(こと)でもいい、YEG(こと)でもいい。そんな何か面白(こと)もありませんか。元気の出る「YEG」はありますか。あれば広報委員会まで、文書でもメールでもなんでも結構です。送って下さい。元気な分かんない、書いちゃう、青年部とはなんぞこんなところはない。なんか最近の動きを見ていると、会議のたびにこんなふうな気がして、期が無いように、達成はするけれど、参加はしない。あなたに任せて、自分は目立たない。自分自身で考えているんじゃないですか。

「YEG」が、よかですか。「最近どうも」が、おぼろげに聞こえてきて、申し訳ない。青年部は決して誰かが勝手にやってくれるのではなく、自分達で創りだしていくものなのだ。面白(こと)するもの面白(こと)するもの、みんな自分達のせいなのだ。自分自身で考えているんじゃないですか。

後半戦も皆様の協力をお願い致します。



副会長 辻 伸吾

我々のビジネス構造改革を実現

早いもので、13年度商青連副会長として3ヶ月が過ぎ、予定者会議も数回、もう9ヶ月間の活動となりました。その間、担当委員会のアントレナズ委員会、もろ0名を超える委員を抱え、感智委員長、6部会長の活動も熱心におび、全国各地の委員会活動の場を広げようとしています。又、期生塾、加盟国も無事終了し、先駆けて、九州ブロック大会も、唐津の地で盛大に開催され、大成功に終わりました。

いよいよ、13年度の活動も、これから佳境に入ります。我々青年部の大きな魅力の2つは、全国各地で企業を代表者として経営しているメンバーの情報にあると思ひます。全国各地のメンバーの中には、不況にもかかわらず、大きな業績を伸ばしている企業や、業績転換に成功し、売上を伸ばしている会社も数社あります。現在、小泉政権の基、構造改革、財政改革に取り組み中として、我々自身が、我々青年部メンバーは、政府による対策を待つのではなく、我々自身で、我々のビジネス構造改革を実現し、21世紀を、勝ち残っていく必要はないかと考えます。これから行われる全国各地のブロック大会、小田原での全国大会、メンバー間の交流を、大いに促していただきたいと思ひます。私自身、全国のメンバーの皆さんとの出会いを、楽しみに、各地にお邪魔したいと思っております。その時には是非気軽に、お声をかけて頂き、皆様と語り合いたいと思っております。今後とも、よろしくお願ひいたします。



専務理事 鈴木 肇

日本経済活性化の起爆剤

商工会議所青年部も親睦と交流の場ではないと批判もされていますが、日本の産業として研究に励むべし。これからの日本経済活性化の起爆剤となる要素は、かなり高いと考えます。お金と時間を有効に活用するために、万人の力を結ぶことが、我々青年部メンバーの重要な役割です。地域産業の中には、優れたものも多く、日本の産業も時代性に適合し、諸外国より進んでいるものも数多くあります。

是非役員会を見学に来て頂き、地域産業の貢献に役立ててください。ビジネス向上の為に、人脈作りも商青連の重要な仕事と考えております。何か御座いましたら気軽に、鈴木までご連絡ください。

委員会紹介

総務委員会



総務委員会は総勢8名でがんばっております。主な職務である総会・役員会の開催に加え新たに委員長会議を開催しております。

また古泉会長の開かれたYEGとの強い思いから役員会・委員会・ブロック代表理事会の各会議報告をホームページ上に掲載いたします。併せてホームページの運用や各種名簿等の情報管理に関する規約も制定いたします。重要な職務として、情報が錯綜している補助金(若手後継者等育成事業)に関する調査・情報の収集を行いホームページ上にて提供させていただきます。現在、県連幹事会及び各単会に調査票を送付しておりますので、情報のご提供をよろしくお願いいたします。このほか各種会議資料の電子化に関する提案をさせていただきます。

最後に今後の商青連のあり方について、委員会メンバーが全国各地のYEG会員の皆様から商青連に対する諸問題を吸い上げ、解決策や今後の方向性を提示してまいりますのでご意見のないご意見をどしどしお寄せください。

今後とも当委員会に対し、ご指導・ご鞭撻をよろしく願っています。

企画委員会



私たち企画委員会は、大協副会長のご指導のもと7名のメンバーで活動しています。活動の内容は、商青連主催の大会である全国大会、全国会長研修会の成功のお手伝いです。なんと言っても、商青連の中では、もっとも規模の大きな、そして全国の会員の方々に商青連を実体験して頂くことが出来る重要な大会です。主管される各県連・単会の皆さんの想いと、主催者である商青連との方針がうまくコーディネートされて素晴らしい大会となるよう精一杯頑張っていきたいと思っております。もちろん今年度の大会だけでなく、翌年・翌々年の大会に関する開催地や日程の決定、基本コンセプトの確認など活動内容は結構多岐にわたっています。

また、今年度からブロック大会の式典部分についてもお手伝いすることになりました。各ブロック大会には大協隊長共々企画委員が気合を入れて参加致しますのでどうぞよろしくお願いいたします。

広報委員会



現在、広報委員会では、ホームページの逐次更新と、機関紙「翔生」の紙面作成に奮闘しております。今まで利用頻度が少なかったホームページ・翔生を全国のメンバーの架橋とすることを目標に、出来るだけアップトゥデートな話題を提供していこうと考えております。

13年度開始から5ヶ月、いや予定者から含めて8ヶ月間、委員会メンバーが手探りでいろいろな企画を検討してきました。その企画は、以下のものです。

1. 安く広告を募集し、YEGメンバーの事業に利用していただくと共に商青連の自主財源を確保する。
2. ホームページの利用価値を高めるために、各種大会の手引書を掲載したり、メールマガジンを発行して内容を紹介していく。
3. ホームページに全国の単会イベントを掲載し、単会間の距離を縮める一助となる。
4. 翔生の紙面をより親しみやすいものにしていくため、記事を多くし、ホームページと連携させていく。

上記の企画を行っていくにあたり、全国のメンバーの更なるご支援をお願いして委員会紹介と致します。

研修委員会



研修委員会のメンバーは、担当副会長以下7名という、商青連の委員会の中で一番少ない人員で活動しています。しかし、少数精鋭という言葉がぴったりの責任感のあるアクティブな集団で、委員会も宴会もスピードラーで内容のある、すばらしい企画、運営をしていきます。当委員会の担当している「翔生塾」と「ヤングリーダー研修」の2つの大きな事業は、全国3万人の一般公募で集まっていたり、それゆえに内容を魅力的なものに企画することが絶対条件といえるので、たいへんなプレッシャーのもと知恵を出し合っています。

しかし、そんなことを言っている間に、すでに「翔生塾」は言い出すときがこないくらい、いろいろな苦労がありました。なんとか終えることができました。成功か失敗かは事業に参加していた皆さんに決めていただくとして、無事に事故なく運営できたことに満足しています。詳しいことは年度末の報告書を楽しみにしてください。いま、我々委員会メンバーは、次なる事業「ヤングリーダー研修」の企画に取り組んでいます。「参加してよかった」と言ってもらえるものになりますので、期待していただき、ひとりでも多くのYEGメンバーの参加をお待ちしております。

ブロック紹介

役員紹介



■直前会長
倉橋 純造
(青森県)



■監事
加城 祐史
(北海道)



■監事
千葉 富士夫
(宮城県)



■相談役
吉本 博次
(奈良県)

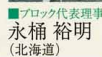


■相談役
北島 重利
(徳島県)

北海道ブロック



■理事
国枝 恭二 (北海道)

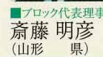


■ブロック代表理事
永桶 裕明
(北海道)

東北ブロック



■理事
鈴木 順三 (青森県)
嵯峨 孝郎 (岩手県)
佐藤 利明 (宮城県)
高橋 茂 (秋田県)
阿部 幹郎 (福島県)
西村 修 (山形県)

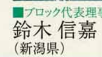


■ブロック代表理事
斎藤 明彦
(山形県)

北陸信越ブロック



■理事
山ノ下 武志 (富山県)
松本 仁 (石川県)
野澤 真人 (長野県)

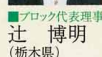


■ブロック代表理事
鈴木 信嘉
(新潟県)

関東ブロック



■理事
宮田 豊和 (茨城県)
富川 吉昭 (群馬県)
安藤 秀男 (埼玉県)
関 学 (千葉県)
鈴木 梯介 (神奈川県)
遠藤 真弘 (静岡県)

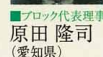


■ブロック代表理事
辻 博明
(栃木県)

東海ブロック



■理事
大西 一司 (岐阜県)
笠間 清 (三重県)
山本 和正 (愛知県)

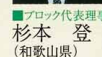


■ブロック代表理事
原田 隆司
(愛知県)

近畿ブロック



■理事
金 英信 (滋賀県)
竹原 繁明 (京都府)
岩崎 道彦 (大阪府)
木下 一成 (兵庫県)
水本 和良 (奈良県)
山岸 寛士 (福井県)
西居 基晴 (滋賀県)

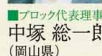


■ブロック代表理事
杉本 登
(和歌山県)

中国ブロック



■理事
清水 雅文 (鳥取県)
渡部 哲也 (高根県)
仁田 一郎 (広島県)
光永 武 (山口県)

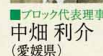


■ブロック代表理事
中塚 総一郎
(岡山県)

四国ブロック



■理事
原田 和典 (徳島県)
山下 仁規 (香川県)
味本 隆 (高知県)
越智 英俊 (愛媛県)

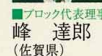


■ブロック代表理事
中畑 利介
(愛媛県)

九州ブロック



■理事
上田 崇仁 (長崎県)
木村 寿宏 (熊本県)
河野 巧 (大分県)
水溜 真樹 (宮崎県)
松下一郎 (鹿児島県)
新里 建二 (沖縄県)
宗野 和博 (福岡県)



■ブロック代表理事
峰 達郎
(佐賀県)

アントレプレナーズ委員会紹介

新世紀！ 起業家精神が日本を変える価値と感動 そして共感を地域社会へ！

アントレプレナーズ委員長
越智 英俊（愛媛 東予市）

平成13年度アントレプレナーズ委員会は、「新世紀！起業家精神が日本を変える価値と感動そして共感を地域社会へ！」を年間テーマとして、全国からの公募委員の方を合わせ、6部会17名でスタート致しました。

21世紀はかつてない大改革の時代だと言われてい
ます。又今までの経営の原理や原則が通用しない時
代とも言われています。ITインターネットの急速な
発達で、私達の商品やサービスにおいても世界のトップ
レベルと比較され、単なる物まねや小手先だけの
ビジネスは通用しない時代になりつつあります。
今世紀の時代を生き抜く事のできる企業は、
「価値」と感動を与え続けなければならないと言
われています。

「夢」「目標」や「ビジョン」を 持つて仕事をしているか

アントレプレナー（起業家）が生業家としてどう
かと言うと、まず何の為に仕事をしているのか、「夢」
そして「目標」や「ビジョン（未来像）」を持って仕事
をしているか、それとも「夢」もなく単なる生活の糧
を得る為に仕事をしているのか、この事が最も大き
く異なる点だと言えるのではないのでしょうか。「事



業を通して、地域社会の為に真に役立ち、その自己
実現が自己満足ではなくてできているかどうかだと
考えます。

「超アプラス思考」の 起業家マインド

私達日本人は現実的ですか、生真面目で、しかも謙
虚な面がありますから、何か新しい事を始めようと
すると、そんな夢のような事を言う「等」とよく言わ
れます。そして次に出て来るのがそんな夢物語は、
実現できる訳がない！という言葉です。しかし私は今
まで、「夢」を理想の段階にし、そして最後には、現
実化してしまおうアントレプレナーを、目の何人も
見て来ました。

その人達に共通する点とは、とにかく術はずれの超
アプラス思考なのです。勿論人の悪口等は切言いま
せんし、又聞いた事もありません。一番大切なのは起
業家精神「アントレプレナースピリット」アントレナ
ーシブ（起業家マインド）なのです。これらの人達を知
つた事は、私にとっても大変刺激的で、素晴らしい勉
強になりました。半信半疑ながらも何と生まれま
せん、「絶対」にできるのだと、強い信念と、魂を込め
た情熱、そして共感能力を持つ「夢」で、本当に実現し
得ない、又のやり方、アイデア、方法論は10
0万通り以上ある事を、ぜひ知って頂きたいと思いま
す。

起業家精神と 自立想像型の相互支援

今年度アントレプレナーズ委員会は、4つのビジネ
ス部会では思い付き「アイデア」を絞り込んでより具
体的な「事業化アイデア」まで発展させるヒントや具
体的なノウハウを、又中心市街地の真の活性化、そ
してNPOを通して地域振興や新規事業、新産業の創
出、新規雇用の確保を、更には青年部員約3万人
への価値ある情報の提供と、ネットワーカ化とその構
築を、委員全員「バー」全員の目標として取り組んで
おります。

今年すでに、関東、近畿、九州の各地で「アントレ
プレナーズ事業がスタート」しており、少しづつ共感の
輪が広がってきています。委員会としても可能な限
り、対応させて頂きたいと思っております。この起業家
精神、そして共感能力を持った自立創造型の相互支
援への考え方が、各ブロックへ早速、そして地域社会
へと広がる事を、心より願ってやみません。

部会紹介

平成13年度アントレプレナーズ委員会は6部会で構成されています。

ニュービジネス交流部会

お菓子屋さん、金物屋さん、ゴム製品メーカー、ソフト会社、パッケージ屋さん等々、多彩なメンバーが集まり、ワイワイガヤガヤやっています。お互いの会社や事業を知ってもらうことから始まり、今ある技術や商品を全く異なる業種の人からヒントやアイデアを出してもらいます。ある時は他人へアドバイスし、またある時は人からアドバイスを受ける側になります。協力から提携へと発展することも大いにあります。

そうした中から全く新しい発想の商品が生まれることもあるのです。方法は、ビジネスシート（自社商品の調査）とメンターシート（アドバイス調査）を使い、自由にディスカッションしていく中からビジネスの可能性を探ります。

こうした機会を部会から役員へ、そして地域YEGへと広げていきたいと思っています。チャンスは商売連の皆さん全員にあります。

中心市街地活性化部会

中心市街地活性化部会はTMO(Town Management Oganization)に関してYEGが新しいまちづくりの旗手となるべく研究活動を続けて参りました。平成11年にスタートしたこの部会は3年目を迎え、いいよその成果を出すべく年間プランをたて活動しています。

部会では1年目「TMOがまちを変える」、2年目「YEGがTMOが変わる」というテーマで調査研究をして参りました。結果、YEGの認知度が3-4%と以外にも低く、助成制度もTMO事業自体にはあるがそれを推進する組織体には無いなど、事業自体が進まない理由を把握する事ができました。今年はいよいよ「YEGがまちをかえる」をテーマとし、アンケート調査を用い、YEGの意識改革を促しています。

年度末には課題の整理が整い、皆さんに理解しやすいTMOとして報告ができるかと思えます。一人一人、そして各YEGの努力でまちを変えましょう。

地域振興NPO推進部会

NPOは、国や地方自治体等の公的機関ではなく民間であること、また、企業のように利潤追求をせず、広い意味での社会的使命感に基づいて公益的な活動等を行うものです。そのNPOが新産業の創出、新規雇用創出の受け皿として注目されています。NPO推進部会には、群馬県伊勢崎市にあるNPO法人「環境ネット21」の六本木さん（相談役）や石原さんがおられますので、これまで、設立までのプロセスや様々な取り組みについて説明頂き、メンバーの知識のレベルアップをはかっています。また、愛知県春日井市にて春日井YEGと近隣のYEGメンバーの参加のもとNPOシンポジウムを開催し、YEGとの関わり方やNPOの手法の有効性を勉強しました。さらに、行政が何故NPOを支援しようとしているのか、行政側から見たNPOの役割や必要性を研究したいと思えます。

今後の方向性として「商売連！みんなで挑戦！NPO」をキャッチフレーズにNPOの手法を取り入れたいというYEGには、こちらから向いてNPOに関する情報提供、促進の支援、コンサルティング等を行っていきたく思います。一年間よろしく願います。

ベンチャービジネス部会

ベンチャー（起業家）としての資質向上のため、全国各地より部会に集まるが、各個人の興味、地域事情の違いからか、共通の題材がなかなか決められずスタートが遅れてしまいます。しかし商売連でベンチャーを勉強する意味、YEGだからこそ考えられること、各地域に持ち帰っても役に立つ内容等と考えたとき、やはりネットワーク、交流と共生をテーマにした題材となります。

現在取り組んでいる「コミュニティカンパニーネットワーク構想」は、中央集約の従来型ネットワークと違い、地域が主体の逆ピラミッド型ネットワーク、地域の情報をポイントという形で地域に還元するネットワークの構築を目指しています。

この部会を通して出会うことが出来た仲間との交流やそれぞれの地域で見聞した事は、今後の自社企業や地域の活性化に多くの学び、ヒントをもたらしてくれると確信します。

インターネット情報ビジネス部会

我々IT、インターネット情報ビジネス部会は、昨年に引き続き、IT、インターネットビジネス情報に関する広い分野から、SOHO/バーチャルモジュール等のインターネットを利用したビジネスの立案及び具体化と、全国3万人の青年部員への情報提供を目指しています。

特に本年度は、意見の交換、アイデアの提案、討議という生きたコミュニケーションが、インターネット上で可能になるグループウェアソフトを、部会内で試用して、IT部会自体のネットワークを確立し、最終的には青年部3万人のネットワークの構築を目指しています。さらに、そのネットワーク上で、BioB-BtoCの実現のための方法やIT導入、電子商取引等に関してネット上で意見交換し、インターネットを如何にすれば自分に、自社にそして青年部に活かせるのか提案し、実現していきたいと思っています。

環境ビジネス部会

環境ビジネス部会は、11人でスタート、アントレの中でも身軽な部会です。しかし、人数が少ない分、話がまとまるのも早く、まとまりのある部会です。

まずは、この部会をどのような方向に進めていけばいいかを話し合い、その中で環境問題を解決する方法として、「すべてをビジネスに結びつけて考えることが、これからは必要になってくる」との意見の一致を得ることが出来ました。そこで、部会としての活動方法を部員の職業の中から、ビジネスに展開していくことにより、環境破壊などを少しでも軽減できるものを選び出し、その内容や問題点を調査研究する事と、ビジネス展開のお手伝いをする事に決めました。

YEGメンバーとしては、商工業者の本分を忘れることなく、色々な人との出会いのチャンスをどんな形にせよビジネスに結び付けるべきだと考えております。



Symbol Logomark

小田原箱根大会開催

2001年11月8日(木)9日(金)
全国大会小田原箱根大会が開催された。
全国357単会から3,568名に参加いただき、
ご縁満開に感謝!

去る十月八日九日、全国大会小田原箱根大会、全国三五七単会から三五六八名という多くのYEGの皆さんのご参加をいただき、無事開催させていただきましたことを、まずは心より御礼を申し上げます。
大したおめでなしもできず、また、至らぬことばかりで、大会会長の力不足と心苦しく存じます。それでも、何とかここまで漕ぎ着けたのはいろいろな方々がいろいろな場面面でいろいろな形で助けてくださったおかげと、そう素直に感謝しております。ありがとうございます。

新しい時代には新しい全国大会を！ キーワードは「変革」と「連携」「実践」「リアル」

「全国大会をやらせてください！」と手を挙げてから七年が経ちました。メンバーも世代交代をし、時代も変わりました。商売を取り巻く環境はよりいっそう厳しさを増しています。私たち販売人はよりいっそうの自己変革が求められています。そんな中で迎える二十一世紀最初の全国大会。「新しい時代には新しい全国大会を！」という思いで、商青連が日商の定款に載った最初のこの記念すべき時に、販売人の集まりである我がYEGの原点を見直し、「変革」のキーワードを念頭に、古泉会長が掲げられたスローガンの「連携」「実践」「リアル」のキーワードを形にすべくビジネスに役立つ新しい全国大会を目指しました。「あなたは新しいYEGの仲間と出会えます。出会うとともに、あなたの商売に役立つヒントが見つかります。YEGの一員であることの素晴らしさを実感していただきます。そして、荷物にならないたくさんのお土産とともに二十一世紀への元気を差し上げます。あなたが主役の全国大会です。」そんな大会を目指しました。

合言葉は「ご縁満開」 ハイテックハイタッチなおもてなし

「ご縁満開」を合言葉に掲げ、地元メンバー二五〇名による「お世話番」やWEBを駆使した「お世話番」というハイテクハイタッチなおもてなしの新しい試みにチャレンジさせていただきました。単に大会当日だけを全国大会と捉えるのではなく、事前も事後も含めての企画とし、大会が始まる前からのご縁創り。事前の大会についての充分な情報提供を通じて、参加YEGには目的意識を持って小田原箱根の地に来ていただけるようにします。まず、主管YEGと全国からの参加YEGの間のご縁を。そして、全国のYEGとおしの出会ひの場を提供したい。そして大会当日には、旧知の友人に会うがごとく。そのご縁が大会終了後にも繋がっていくことを念じながら。

また、商売に役に立つ大会をということで、ビジネス交流プラザを「ご縁満開 小田原評定(YEGビジネスフォーラム21)」と

銘打つて、本大会のメインイベントと位置付けました。ワタミの渡邊社長の「夢に日付けを」、河野太郎vs渡邊善美の「二ッポンリポリニュース」、八起会の野口誠、まきいサミット、アントレの福島正伸、NPO、M&Aなどバラエティー豊かな講師の皆様による講演会セミナーを聴講するもよし。六〇を超える全国からのYEG内外の企業ブースを覗いて、商談をするもよし。プレゼンテーションを聞くもよし。新しい友人と語りうもよし。という企画でした。商売に役立つ気付き、情報、ビジネスヒント、チャンスの種を見つけていただけたでしょうか。お世話番。お世話番のしくみを通じて知り合ったまた会わぬYEG仲間との出会ひの場になりましたでしょうか？

初日の最後は、大懇親会と温泉旅館での宿泊。神奈川のもいものを揃え、箱根ならではおもてなしと準備しましたが、いかがでしたでしょうか。温泉の湯加減はいかがでしたでしょうか？

日が変わつての二日目。元氣溢れる記念式典は、全国から一堂に会するYEG会員の一体感の醸成と来賓の方々を通じてのYEGの外部へのPRの場になったのではと手前味噌ながら思いました。

記念講演では、講師をお願いしておりました樋口様の急病というアクシデントで慌てました。しかし、多くの方々のお力添えのおかげで、近藤剛様をお願いすることができ、ホッとしました。小田原の商店街との連携した「YEGまちおこし物産展」でも多くのYEGの友情が花開いたようです。出店してくださったYEGの皆様、ありがとうございます。

ここにYEGという素晴らしい集まりがあり、 手を差し伸べれば握り返してくれる 素晴らしい仲間がいる！

大会が閉幕した今、思いの何分の形にできたのだろうかと案じております。しかし、はつきりと確信できたことは、「ここにYEGという素晴らしい集まりがあり、手を差し伸べれば握り返してくれる素晴らしい仲間がいる！」ということです。大会の閉幕は終わりではなく、全国YEGの皆様はじめこの大会にいろいろな立場で関わってくれた人々にとつて何かの始まりであつて欲しいと、ひたすら念じています。満開のご縁が、次には大きな実を結んでくれることを祈っております。

何度言っても言い足りない思いを込めて、「ありがとうございます。ありがとうございました。」またお会いできる日の遠からぬことを念じてつ……。

p.s

神奈川県連、小田原YEGの皆は本当によくやってくれました。この場で身内を誉めるのは甚だ場違いとは承知していますが、二言ねえらいを言わせてください。



▲「ご縁満開小田原評定」の開会



▲次年度大阪大会のPR



▲久留米全国大会の式典



▲熱気溢れる会場内



▲久留米会長研修PR

ブロック大会報告

北海道 ブロック

深川大会

「共生そして自立 たちあがれ若き起業家たち」
平成13年8月31日・9月1日、北海道は深川YEG主管により「北海道ブロック大会」を開催させていただきました。
当ブロック大会は、開催地テーマ「共生そして自立 たちあがれ若き起業家たち」のもと、北海道内のYEGメンバーをはじめ、全道連関係者の皆様、また全国のYEGメンバー、総数355名のご登録をいただき、記念式典・記念講演会・大懇親会を盛大に行うことが出来ました。
当ブロック大会を通して、時代を担う若き青年経済人の連携および異業種交流・情報交換を行うことができたのではないのでしょうか。
本大会の開催に際しましては特設段ご支援、ご協力をいただきました皆様、またご登録ご参加いただきました皆様、心より感謝申し上げます。



東北 ブロック

弘前大会

「情熱と友情に感謝」
本年9月21日・22日両日に開催されました大会に当たりましては、東北六県並びに全国各地から、多数のYEGの仲間と、公務多岐の折りにもかかわらずご臨席賜りましたご来賓のもと盛況裡に開催することができました。ブロック大会は連合会の最も大きな事業であり、一年間の集大成とも言える事業でもあります。特に本年の弘前大会は、第20回という記念すべき大会であり、商青連のスローガンであります「連携YEG実践展開パーチャルからリアルへ」と、開催地の「絆〜地域は接点・人が原点〜」テーマのもと、先行き不透明な時代に、企業と地域社会の運営を担う青年経済人が交流と連携の輪をさらに広げ、企業の実現と豊かな地域社会の形成に果たす商工会議所青年部の役割を認識し、その実現のためをなすべきを研究、研鑽することを目的に開催したものでありますが、所期の成果を十分に発揮できたものと認識しております。
最後になりましたが、熱い情熱と力強い団結のもと素晴らしい大会の運営に当たられた弘前YEGと事務局の皆様、また、絶大なご支援を賜りました関係諸機関の皆様、に衷心より感謝申し上げます。御礼の挨拶とさせていただきます。大変ありがとうございました。



北陸信越 ブロック

村上大会

「手を結び共に歩もう21世紀」
第21回北陸信越ブロック大会村上大会は、9月6日7日の両日、新潟県村上市の村上市民ふれあいセンターを中心に開催されました。
開催地テーマ「手を結び共に歩もう21世紀」は、新世紀スタートの年に青年部連携強化を意味するもので、新潟県連の全面的バックアップも得られての開催でありました。ブロック内では最も北に位置する悪条件にも拘わらずブロック内外より674名の登録がありました。分科会は開催地村上とこれからの企業を見据えた3つの分科会が開催され、その夜の大懇親会では、「食の日本一対決!!」と題されて村上が日本一と誇る食材でもてなしができたといい、600名もの参加者の皆様にもご満足いただけたと自負しております。翌日の記念講演は、地域と政治家の関わりをテーマに福岡政行氏を迎え、100名以上の一般市民を交えた講演会で時間を忘れる程の盛況でありました。
われわれ村上商工会議所青年部にとって強い団結力と自信を得られた大会となり、これらに加え、ご参加いただきました全国のYEGメンバーのおかげと深く感謝申し上げます。



関東 ブロック

宇都宮大会

「雷都からはじまるネットワーク」
宇都宮YEGでは、栃木県内の各地の協力ののもと、9月8日(金)に栃木県総合文化センターで、関東ブロック管内80青年部、商青連役員、来賓など約1300名の参加により、「雷都からはじまるネットワーク」をテーマに「関東ブロック大会 宇都宮大会」を開催いたしました。
記念式典では、名尾関東経済産業局長、福田栃木県知事、福田宇都宮市長、梁宇都宮商工会議所会頭より、青年部に対する期待を込めた祝辞をいただき、近関東ブロック会長、古泉商青連会長からは主催者としての青年部の目指す道と意気込みを挨拶として述べていただきました。引き続き開催した記念講演では、第一部の柳ツインリンクもぎの東塚弘司氏が「世界のホンダ」として発展してきた経緯を、第二部のキンピル味の榎本良夫氏は、酒類事業からアグリバイオ事業へと拡大している企業戦略を、共に映像を交えながら講演いただきました。懇親会では、各地YEGとの交流を図りながら、カクテルとジャズ演奏に盛り上がり、幕を閉じました。また、同時に開催した栃木県の物産展でも多勢が来場し、盛況を呈しました。
この大会が、盛大に開催できたのも、各地青年部はもとより、各方面からの支援によるものと深く感謝しています。今後も、青年部のネットワークを十分に活用し、商工会議所事業を積極的に応援しながら、企業の実現、地域の活性化に寄与していきたいと思っております。



東海 ブロック

豊橋大会

「Heart to Heart YEG一界を越えて」
平成13年10月26日、「Heart to Heart YEG一界を越えて」と題した豊橋YEG主管による「東海ブロック大会豊橋大会」が愛知県豊橋市にて開催されました。全国9ブロックの最後の大会にふさわしく、全国のブロック代表理事9名全員の参加をいただくと同時に、東海ブロックエリア外や近隣商工会議所青年部など正しくサブテーマである「界を越えて」(地域や組織などの枠組みを越えて)、160名程の団体に「ご参加登録いただき、1,166名という東海ブロック大会過去最高の登録人数を記録することができました。当日は120名を超える豊橋YEGメンバーのホストによる各種行事(クイズ、記念式典、記念講演会、分科会(4分科会)、ビジネス交流プラザ&物産展、大懇親会)が挙行され、見学から研修、参加、交流、懇親と大盛況かつ有意義なブロック大会となりました。
最後に、ご支援いただいた商青連役員はじめ各単会、団体の皆様へ感謝申し上げます。



近畿 ブロック

新宮大会

「新宮・新世紀・新発見」
近畿一円はもちろん、古泉会長を始め商青連の役員の方々も全国よりご来新いただき誠にありがとうございました。まずは厚く御礼申し上げます。
さて、「新宮・新世紀・新発見」をテーマとし開催された新宮大会。21世紀最初の近畿ブロック大会ということもあり、景気低迷が続く昨今の経済情勢の中で、何らかの新発見をしていただければと新宮YEGメンバー一丸となって取り組んでまいりました。記念講演、分科会、そして大懇親会。それぞれに新宮YEGの「熊野アロハズビット」我々のおもてなしの心を感じて頂くことができたこと存じます。陸の孤島「新宮」での中央研修会(平成7年度開催現会長研修会)、そして今回の近畿ブロック大会の開催。残すところは全国大会のみ?そこには私も卒業しているでしょうしかし、今回の大会開催を通じ、若手の成長が何よりうれしく頼もしく感じられました。このメンバーなら、もしかしたら本当に全国大会を開催できるかもしれません。
最後になりましたが、本大会開催に際し、ご支援ご協力を賜りました関係の皆様、心より感謝申し上げます。結びとさせていただきます。ありがとうございました。



中国 ブロック

児島大会

「新世紀 始めの一歩 児島から」
中国ブロック大会は好天に恵まれ、また過去最大級の登録者を迎えて、好評のうちに終了しました。ブロック外の全国からも多数の参加者を数え、主管地一同感激致しました。「新世紀 始めの一歩 児島から」という平易なテーマのもと地域の過去の歴史、現状、新しい時代へ向かっての取り組みと、段階を追って実態を見て頂きました。また、講演では、小く大の中で生き抜いた元岡臨鷺羽川の出羽海狗方(当地出身)の魁世訓を伺うことができました。過去の大会成功例は如何にしていたのか。また、現在元気のよい企業はどのようにその活力を維持しているのか。そして、これから地域が街全体を上げて活性化に取り組むためには、どのような方法があるのか。開催地における具体例にこだわって企画した結果、テーマ同様に分りやすい内容にと考えます。特に、地域を上げて推進しているアガシヨウカン児島の運動における、「みんなで作るわたしたちのまち」という全員参加の手法には、多くの賛同と質問を頂きました。地域の活性化のために手づくりで進めてきたことが、ようやく評価されるようになったと感じられ、今後の励みにもなります。ご参加の皆様、大会を支えて下さった皆様有難うございました。



四国 ブロック

宇和島大会

「皆さんに支えられ「し・あ・わ・せ」」
平成13年8月25日26日、第18回四国ブロック宇和島大会が開催されました。登録者数584名は史上最大の四国ブロック大会となり、サンプライムホールをメイン会場として宇和島市一円で分科会を開き盛大に行われました。400インチのプロジェクターの写し出す映像は、コンピューターを駆使した映像で、参加者に迫力と感動を与え、式典内で行われた「中條高德氏」の講話「おいちゃん戦争のこゝろ」では、日本人としての誇りを実感しました。
また、企業PRのYEGプラザや観光施設の視察、地元企業訪問など充実の分科会に青年経済人として研鑽をしていただきました。懇親会では単会が交友を深め、最後には参加者全員による「明日があるさ」の大合唱で幕を閉じました。
最後に全国各地からご参加頂いた商青連役員のみならず、また四国各地から参加頂いたメンバーのみならず、主管、うわまYEGは皆さんに支えられ「し・あ・わ・せ」です。この感動を忘れません。ありがとうございました。



九州 ブロック

唐津大会

「九州はひとつ、起こそう!新世紀維新」
各地のブロック大会に先駆けて、去る7月13日、14日の両日、唐津市に於いて、第21回九州ブロック大会を開催させていただきました。
本大会には、九州各地はもちろん、遠くは北海道ブロックからも参加頂き1,000名規模で大会を実施することができました。大会期間中は、数々の不行き届きの点もあったこと存じますが、皆様のご理解とご協力を賜り二日間の日程を無事に終了することができました。深く感謝申し上げます。唐津YEGは、会員数約60名の小規模で発展途上の単会ではありますが、この度大会主管の機会を与えていただき、貴重な体験をさせていただきました。併せて、YEGメンバーの熱い心も感じ取ることができました。ありがとうございました。
さて、今大会で九州ブロック大会21回を数えるとともに、九青連が足立5年になります。また、次年度は商青連会長も当ブロックからということで、ますます「九州は一つ」を合言葉に団結、協力し、九州から新風を吹き込みます。



塾生翔



平成十三年六月六日出発、三泊四日 翔生塾「韓国ツアー」

写真と文 ● 研修委員会 新里建二

六月六日 平成十三年六月六日、いよいよ翔生塾IN韓国の幕開けである。我々研修委員会は、西居委員長を筆頭にツアーを成功させるべく、第の仕事である、仁川(インチョン)空港での参加メンバーの迎え、受付を開始した。しかし、仁川から金浦(キムプ)空港まで大きい、仁川新空港(四月、インチョンにはさらにデカイ)到着出口が、A、Fまでありその距離がなんとキロメートルにおよぶ。それには、研修委員も往住しました。地元の添乗員も力をかり、とにかく全員をピックアップした後、ワル市内に向かいました。

ソウルは、総面積が六〇〇km²、京都市(くら)いで韓国総人口の四分の一のおよそ(四〇〇万人)の人々が暮らすメガロポリスで、世界で最も人口密度の高い都市のひとつです。この日は韓国は、休日でもいつも比較的、交通量が少なからしいが、それで半端な渋滞ではない、そこそこ渋滞しているうちに、市内の(金剛山)というレストランに着き、そこで焼肉を目の前でいただく。古泉会長の挨拶、日商の韓井部長の挨拶、そして結婚直前の乾杯、一気にヒートアップ、会場は韓井部長の挨拶になり、あまりのインテンション(委員としては、これからのスケジュールに採る不安を感じずにはられません)でした。なにはともあれ日め無事終了。

六月七日 六月七日晴天、なんと夕方(は)、朝食を早々に済ませ、**第2回世界商工会議所大会**会場、COEXセンターに向かいました。COEX(コエックス)は、韓国総合展示場でありながら地下には、ショッピングモール、ミニマムメント施設を



▲第2回世界商工会議所大会のステージ



▲スピーチをする金大中大統領

訳のイヤホンが設置され、チャンネルにより五カ国語の言語が選択できるようになっています。また、国際大会ならではの体験でした。

会が進み、いよいよ金大中大統領のスピーチとなり、一九九七年のワオの暴落の後、奇しくもIMF(国際通貨基金)の援助を受け、いかに韓国経済を立て直してきたかを熱く語っていただきました。私は、ほっと胸がなぐさまりました。関係上、大統領目前にすることができ、まじまじと体験させていた

午後からソウル市郊外の陶芸の里、利川(イチョン)で海剛陶芸美術館とOBビール工場を見学しました。OBビールは、韓国で五〇%のシェアを誇つて



▲OBビール工場見学するメンバー

いるだけあつて、その近代的な設備と規模には、驚かされました。帰りに試飲中には、試飲の意味のわからないメンバーもいて、と肩掛けクッキー(※お土産のキムチを入れるのに丁度よ)もいただきました。まことに感謝、感謝!

夕刻、COEX(コエックス)センター、コナヒルホテルにて、**韓日青年経営者交流会**が行われました。円卓のテーブルに翔生塾のメンバーとKCCI(韓国商工会議所)会員企業の皆さんと半々に座り、その中に通訳の方を一人配置するという形で行われ、お互いのビジネスと半々とおもったトークが交わされたようでありました。私もそのテーブルには、なんと釜山から五時間もかけてこの会場にいらした方もいて、誠に恐縮いたしました。また、同じテーブルに日本人で韓国製の配給会社に勤務され、近々、日本のマーケットに進出するの意欲満々なビジネスマンもいて、圧倒されっぱなしでした。

六月八日 六月八日(異常に蒸し暑い)、本日は、翔生塾のメインイベントの一つ、小泉会長がスピーカーとして出席されるワーキングセッション開催の日でありました。午前十一時よりCOEXセンター一階会議室にて、アソシエイト代表、フイリ代表の後をうけ、いよいよ我ら、古泉会長の出席となりました。スピーチのテーマは、「商工会議所青年部の活動について」青年部でありましては、気が振りはありますが、世界各



▲円卓を囲んでの韓日青年経営者交流会

の参加がのめり、二言三言かみしめるように朗々とスピーチされました。拍手喝采をうけました。スピーチ後の質疑の時間には、当然古泉会長に質問が集り、各所の青年部に対する関心の深さに驚かされました。話によると、今韓国で青年部のある国は、日本だけ、韓国においては発足を検討中らしい。

昼食の後、ソウル市内の東大門(トナム)市場の視察を行いました。ここは、韓国最大の規模を誇る衣料中心の卸売市場です。



▲スピーチをする古泉会長

場、約三万軒の問題があるといわれています。圧倒的な数の品物を買求める多くの客(お客)が、まさにコリアンを感じずにはいられません。また、面白いことに近代的なショッピングセンター、ミリオネア、など昔ながらの市場の風情が隣接して、何と、ほぼ二十四時間開いているというから驚きです。歩道橋の上まで店を開けるのは稀な例です。

夕食は、COEXセンター、グランド・ホールに於いて今回の世界大会を締めくくると、大晩餐会が催されました。座席は、自由席なので、勇気をもってできる外国人の方と同席しようということで、目的を達したのですが、慣れない英語に四苦八苦、オーストラリア・フランス

六月九日 六月九日、最後のカラカラです。大半の方が、本日帰途につく為、早々とホテルをチェックアウトし、最終目的地、大韓商工会議所までバスで向かいました。会議所では、金部亭(啓明)大國際学部教授より、「韓国経済と韓日経済協力・動向と対応」についてのセミナーが行われました。先生からは、日本経済のリスク要因として、不良債権、財政赤字、低生産性部門改造改革の遅れなどの指摘があり、また韓国においては、ウチの暴落後、IMFの指導のもと、五大財閥の改革や四大改革(金融、企業、公共労働、IT)の国家的連入などのレクチャーがありました。日本も多岐に学ぶべき点があると感銘しました。



▲リトルエンゼルの公演



▲セミナーに参加する塾生

また韓国は、二〇〇〇年のサウナルドカップむけインフラの整備が急ピッチで行われつつあります。新しい空港、高速道路、高層ビル群、これらを見ていると、我が日本、なかなか言いたくないのですが、しかしながら、我々は青年経済人として、この資質向上を図り、よりよき日本の未来像に少しでも貢献できれば、と改めて感じた次第であります。

この翔生塾の開催にあたり、ご協力いただきました、大韓商工会議所、日商の事務局の皆さん、そして参加くださった、塾生の皆さんに感謝申し上げます。



▲解散の様子

ヤングリーダー研修



時 ● 平成13年10月18日
場所 ● 京都
(ホテルグランピア京都)
登録者数 ● 425名

文 ● 研修委員会 木下一成



▲西居委員長

平成十三年十月十八日、京都のホテルグランピア京都において十三年度YEGヤングリーダー研修会が登録者四百二十五名という商書連ヤングリーダー研修会過去最高の登録数にて開催されました。この一場の場を御借りして、まずは、お礼申し上げます。



▲講演される中村氏

項的的には三部構成で、第一部「IT時代に勝ち残るトップの条件」と題し、(株)ニッパエー代表取締役 中村一八氏に、以後の「第二三部について如何に学ぶかを基礎講演されました。第一部は、「楽天市場の強みと今後の展開」と題し、楽天(株)代表取締役 三木浩史氏より講演されました。第三部は、「トップは、何を要するべきか」と題し、(株)エヌネットワーク代表取締役 内原康夫氏、(株)ドラボックス(株)代表取締役 藤倉泰徳氏、楽天(株)監査役 畑崎一氏、全国商工会議所 青年部連合会長 古泉幸三氏ら四名によるパネルディスカッションが行われました。研修会は、三部共に大変有意義であり、参加者すべての人たちが、今後の会社運営の灯台を見出したと思います。

第一部より内容について触れていきます。

「味仙」「神座」と黒板に書かれました。さて、これは何でしょうか？会場内で数名がわかったようで、挙手をした代表者が「ラーメン」と答え、大阪のラーメン屋さんの名前であることが解りました。なぜここでラーメン屋なのでしょか。それも小さな余り有名でもないラーメン屋なのでしょか。「小さなラーメン屋でもキラリと光る何かがある。人は知り有名にもなる(有名になる手段として)インターネットがある。会社は規模はない、中身の質である。更に、「これからの繁盛店には、全て「型」があり、この型が大切な要素。仕事には全て定石があり、この定石とは人真似でもよいこと。人真似は決して悪いことではなく、良いところは真似、人の意見は素直に聞く素直な心を持たなければならぬ。」悪い例として、繁盛していないラーメン屋さんを繁盛しているラーメン屋へ連れて行く時のことをあげ、「良いと学ばず、素直な心を持たず、繁盛店のあらゆる探

しばかりする」と言われました。この言葉は自分に言われている言葉であるように深く心に刻み込まれました。また、「守破離」について。「守」とは今まで会社で守ってきたことを素直な心で守り守ること。「破」とは「守」が極点で終了したと考えられることに、その殻を破り二歩前進すること。「離」とは今の仕事内の事柄を全て終了し離れて次の新しい歩を踏み出すことである。このステップを踏まずして、「破」もしくは「離」に行こうとしても上手く行かないのは当たり前である」ということを強く訴えられていました。これら全部の話を、後にある第二、第三部の話とも「自分には関係ない」と考えず素直な心で聞けば必ず前進があると、最後にまとめられたと思います。

第三部は、楽天(株)代表取締役 三木浩史氏の講演となり以下に要約を示します。

最初に「楽天創業時の仮説。楽天創業時に四つの仮説を立てたことから全てが始まる。

- 一、インターネットは、もつと簡単になる、もつと便利になる。
- 二、インターネットは、爆発的に普及する。
- 三、日本人は、インターネットでも買うようになる。
- 四、インターネットで流通が変わる。

この仮説を現代耳にするとも何かおかしくないが、まだ世間の人々がインターネットを疑問視している時代にこの仮説を徹底的に信じて進んできた情熱が、今の成功の基となっていることを、今も忘れられない。また、創業当時は百貨店しかなかった楽天市場も現代では八百店を越え売り上げも億円を超える店が出てきた。楽天は、利益率が高く三十分以内で売れる。三、四年後に流通割合は将来どれくらいになるか?。回答「売り上げは、十一、二十%は行くだらう。しかし、本場のインターネットの凄さは、マシオン販売を例に取るとインターネットで観てきた人は、成約率が非常に高い。またアメリカでは車は四十五%がインターネットを覗いてから購入している。更に、将来はゴルフ販売店を試してみても、その場々モビリティを使って購入する時代がくる。質問「創業当初の苦労話はありますか?。回答「最初には百社通って社契約できればよい方だ。情熱だけでチャレンジする人生だったが契約できた。最後に三木浩史より「三氏が社員にいつも言っている言葉「出来ないといい訳を言うのは簡単。どうしたら出来るかを考えよう」ということが大切。



▲講演される三木氏

第三部は、インターネットで、B to Bのビジネスを行っている(株)エヌネットワーク代表取締役 内原氏より、インターネットで金型を必要とする企業と金型工場を結んでいる会社であるとの説明がありました。また、(株)ドラボックス(株)代表取締役 藤倉氏より、運送業で、空きトラック情報とか荷主さんの情報などをインターネットで結んでいる会社であるとの説明がありました。(金型工場および運送業を営まれているメンバーは、是非とも二報を)

その後、パネルディスカッションが始まり、コーディネーターの中村氏より最初の質問として「我が古泉会長に、「イ

ンターネットについて。ここで古泉会長は、頑張ってください。私の言葉は、今あまり必要とされなくなっている。乗り遅れインターネットは、中抜き業者でコストダウンを図る技術なので、問題としては必要でないと言っている人も多い。この発言に対して、間髪を入れず楽天監査役 畑崎一氏より、「インターネットを使って事業が上手くいっているのは、実は小売業者でなく、問屋業の人である。品揃え、在庫など、小売店より問屋の方が有利であり、また安価で販売できるのも問屋である」と言いかえされました。

▲パネルディスカッションの様子



▲話をされる古泉会長

ンターネットについて。ここで古泉会長は、頑張ってください。私の言葉は、今あまり必要とされなくなっている。乗り遅れインターネットは、中抜き業者でコストダウンを図る技術なので、問題としては必要でないと言っている人も多い。この発言に対して、間髪を入れず楽天監査役 畑崎一氏より、「インターネットを使って事業が上手くいっているのは、実は小売業者でなく、問屋業の人である。品揃え、在庫など、小売店より問屋の方が有利であり、また安価で販売できるのも問屋である」と言いかえされました。

まいりました。(会長頑張れと心でつぶやいた)しかし、その後会長は静かでした。その後いろいろパネルディスカッションは続いていたようですが、最終的に「企業は夢である。人を集めるのも夢である。」というところに落ち着き第二部の幕を閉じました。その後場所を移動し、京都YEG主催による大懇親会が行われ、百七十四名の参加がありました。

P's 研修会終了後の京都の夜で、西居研修委員長は、人生を変えたい大変な経験をした。その後の委員長は、人生に開眼した。清々しい顔になり、狂牛病の風吹き荒れたのが、家業に励まされています。報告しておきます。みなさん松喜屋さんの牛肉を買います。

第19回商工会議所青年部 全国会長研修会 久留米会議

連携YEG実践展開 パーチャルからリアルへ

2002年2月8日(金) 9日(土)



研修会

2002年2月8日[金]14:00~18:00
市民会館大ホール

この会長研修会は、1. 商工会議所長が所長への強い、運営方針を伝えること。
2. 商書連が青年部組織(興隆、プック、親善の関係など)についての、商書連として知っておくべきことのオンラインセッションをすること。
3. 同じ悩みや不安や夢を共有する仲間である商書連との交流の場を提供すること。といふ3つの目的があります。
各紳士の会長、次期会長、事務局担当を出席者ではなく参加者として位置づけ、各参加者には単独ごとに配布するスウィッチを渡し、質問に回答してもらいます。その回答を即座に集計し、スカーフのエンターテナー(商書連事務局職員等)からの意見を聞くことと、会場の参加者の中から7名に意見を聞き、意見の集約を行います。この新しい形の研修会に是非ご参加下さい。

■前泊者交流会
2月7日[木] 19:00~21:00
場所/創世 参加費/10,000円

■大懇親会
2月8日[金] 19:00~21:00
場所/萃香園ホテル

■会員総会
2月9日[土] 10:00~11:30
場所/萃香園ホテル

こころの発信 Switch on

2002年2月、久留米YEGが主催する「第19回商工会議所青年部全国会長研修会」(今年開催)です。会場には、「アライザンシステム(伊勢国産)のスイッチ。参加者は「スイッチ」を通して、その実態を即座に大規模に収録することができ、YEGの現場について、リアルタイムに発信することができます。「スイッチオン」と共に、心を発信し、全国の親と親と共感し合ってください。それぞれの夢の実現に向けて、明日からの新たな一歩、久留米の地で踏み出してください。

開催日 2002年2月8日(金)・9日(土)
開催地 福岡県久留米市



若き経済人が、夢を語る。仲間の顔が見えてくる。
みんなの思いが、聞こえてくる。「久留米会議」で。

今回は全国の青年部内で話題?の
「若手後継者等育成事業」の
レポートをお届けします。

恐怖の自己内面分析!

九州ブロック 宮崎県連
日向・高鍋商工会議所青年部
写真と文 ● 宮崎県連出向理事 水沼真樹



▲真剣に取り組む研修会の様子

本年度、宮崎県連では「若手後継者等育成事業」の環として県連をブロックに跨り、県北と県南で連携事業を行うこととし、その先陣を切って平成13年6月18日日向商工会議所会議室において、最近話題の「テーマは、消費を促し、変動の時代を生かすために重要な自己内面分析及び意識改革をテーマに、研修会を開催した。この本を読んだ方も多しと思うが、この本の中にはネズミと子びとが登場し、その行動パターンと自分を照らし合わせる事で自己の行動パターンや自己分析が出来るようになっていく。おのおの参加者の感想はさまざまが出てくる。こんな自分ではなかったハズなどと頭を抱えるメンバーが続出!。日頃自己分析をする機会の少ないメンバーにとって、いい薬?になったのではないかとと思う。今後ともこういった研修が継続できればと思っ。

4単会が力を合わせて イベントを企画運営!

東海ブロック 三重県連
津久居・鈴鹿・亀山商工会議所青年部
写真と文 ● 三重県連出向理事 笠間 清



▲たくさんの方で賑わう会場

津久居・鈴鹿・亀山商工会議所青年部では、平成13年度「若手後継者等育成事業」の広域連携・地域振興事業の一環として、津市・地域振興整備公団・中勢北部サイエンス・ティ推進協議会・周辺の商工会青年部と協働し、行政・民間企業・地域との連携・交流及び地場産業の発展等を目的とした総合イベント「ふれあいスペースinサイエンス・ティ」地域・人・企業を「夢」を平成13年5月20日(日)に、津市の新都市「中勢北部サイエンス・ティ」において開催しました。当日は天候にも恵まれ、12店出店の企業展、ハリコプター遊覧飛行、ホバークラフト体験試乗フリ、マーケット、ポニー乗馬、ベントボトル飛ばし等の盛り沢

て感じると共にYEGメンバーが力を合わせていれば、もっともっと多くのそして大きな事ができそうな気がした日でもありました。



▲各コーナーで楽しむ家族連れ

山イベントを行い、約20,000人の市民の方々が訪れ、大盛況に終える事が出来ました。

この事業は、津YEGのメンバーが中心となって事業の企画から打ち合わせ、事前準備から当日の運営等に活躍されました。官と民が協力し、今回のような大きなイベントを成功させたという点で大きな糧となりました。またYEGのハワ!情熱そして行動力を改めて感じる。

編集 後記

今回は、「翔生」発行が遅れまして大変ご迷惑をお掛けしました。まずは、お詫び申し上げます。

広報委員会メンバーの多くは、出版物に関して門外漢で、押さえないといけないところを押さえ切れなかったということでしょうか。ともあれ発行できたことにちよつと「ほつり」としています。だけど今度はHPの更新しなきゃいけないし、それともなう「商青連」の力、その苦情対応。まだまだつらい日々が続く。寝れない日々が続く。

そんな愚痴ばかり言ってみてもしょうがないので、今度は今まで以上に皆さんにいろいろな情報を伝えていきますので、これからもよろしくお願ひします。

最後になりましたが、「翔生」発行に対して助力していただきました皆様に感謝申し上げます。

皆様のご意見お待ちしております。
このコーナーでは、全国の青年部メンバーからのざっくばらんな投稿をお待ちしております。お問い合わせは各県出向理事または商青連ホームページまで!

- 平成13年度 会長・副会長・専務理事挨拶 1
- 委員会・ブロック紹介 2
- Z アントレプレナーズ委員会紹介..... 3
- T 全国大会報告 4
- E ブロック大会報告 5
- N 翔生塾 in 韓国 6
- T ヤングリーダー研修 全国会長研修会PR 7
- S YEG見聞録北から南から 編集後記 8